

平成 29 年度 全国学校保健・安全研究大会 開催要項



平成 29 年度全国学校保健・安全研究大会
三重県実行委員会

平成29年度全国学校保健・安全研究大会 開催要項

1 趣 旨

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子供の心身の健康にも大きな影響を与えており、学校生活においても生活習慣の乱れ、いじめ、不登校、ストレスによる心身の不調や児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、性に関する問題行動や喫煙・飲酒・薬物乱用、感染症など、現代的な健康課題が深刻化している。また、登下校中の交通事故や事件、校舎からの転落事故への対応など、学校管理下における子供の安全確保が重要な課題となっている。さらには、東日本大震災に鑑みた「防災教育」の充実、原子力災害への対応など、新たな課題も発生してきている。

これらの課題解決を図るためには、学校全体として学校保健・学校安全に取り組む校内の組織体制を整備するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を推進する必要がある。

本大会は多年の研究の成果を踏まえ、生涯にわたり心豊かにたくましく生きる子供の育成をめざして、諸課題について研究協議を行い、学校保健・学校安全の充実発展に資するものである。

2 主 題

生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
～自ら心身の健康を育み、安全を確保できる子供の育成～

3 主 催

文部科学省、三重県教育委員会、津市教育委員会、(公財)日本学校保健会、
(一財)三重県学校保健会

4 期 日

平成29年11月16日(木)、17日(金)

5 開催地及び会場

開 催 地 三重県津市
会 場 三重県総合文化センター(全体会及び課題別研究協議会)
(三重県津市一身田上津部田1234)

6 内 容

(1) 全体会

- ・開会式
- ・表彰式

学校保健・学校安全の功労者に対する文部科学大臣表彰を行う。

- ・記念講演

講演内容 「学校事故対応に関する指針とこれからの学校安全」

講 師 東京学芸大学教育学部 教授 渡邊 正樹

(2) 課題別研究協議会(別表)

課題に基づいた提案、研究協議、指導助言及び講義を行う。

7 日程および内容

11	11:30		12:00	12:30	13:00	14:00	14:30	16:00
月			一般参加者 受付		開会式 表彰式	休憩	記念講演	
16			受賞者 受付	受賞者 打合会		受賞 伝達式		
日 (木)								

11	9:00 9:30		12:00	13:00	15:30		
月	受 付	課題別研究協議会 (5 課題)		昼食・ 休憩	課題別研究協議会 (5 課題)		
17							
日 (金)			全国学校保健会中央大会				

8 参加対象者

- (1) 国公立の幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校(園)長、副校(園)長、教頭、保健主事、養護教諭、保健体育科教諭、安全担当、学級担任、その他の教職員
- (2) 学校医、学校歯科医、学校薬剤師
- (3) 教育委員会の学校保健・学校安全関係職員
- (4) 学校保健会事務局の職員
- (5) P T A 会員、その他都道府県・指定都市・中核市教育委員会で適当と認められた者

9 資料代

3, 0 0 0 円 (大会誌・当日配付資料代)

※今年度より大会報告書は作成せず、当日資料を配付予定です。

10 関係団体が主催する行事

- ・ 第 67 回全国学校歯科医協議会 平成 29 年 11 月 16 日 (木)
- ・ 第 67 回全国学校薬剤師大会 平成 29 年 11 月 16 日 (木)
- ・ 第 48 回全国学校保健・学校医大会 平成 29 年 11 月 18 日 (土)

11 その他

- (1) 大会当日は、津駅西口から三重県総合文化センターまで、無料シャトルバスを運行予定です。(「13 大会会場へのアクセスについて」参照)
- (2) 大会 1 日目 (16 日) につきましては、クロークの収納場所に限りがあります。宿泊をされる方は、一旦荷物を宿泊施設にお預けいただいてから御参加いただくと助かります。また、コインロッカーも完備しておりますので、小さな荷物等につきましては、なるべくコインロッカーを御利用いただけますと幸いです。

〔別表〕

平成29年度全国学校保健・安全研究大会 課題別研究協議会

課題	研究協議課題	研究協議課題設定の趣旨	研究協議の内容
第1課題	学校経営と保健組織活動	<p>心豊かにたくましく生きる力を育てるためには、児童生徒の発達の段階を考慮して学校教育活動全体で取り組む必要がある。</p> <p>そのため、学校経営の進め方と保健主事等の果たす役割並びに学校、家庭及び地域社会が一体となった組織活動の効果的な取組について協議する。</p>	<p>① 健康教育を中核とした学校経営の進め方について</p> <p>② 保健主事を核として推進する健康教育の進め方について</p> <p>③ 学校、家庭及び地域社会が連携した学校保健委員会の効果的な取組について</p>
第2課題	保健管理	<p>生涯を通じて健康の保持増進を目指す学校、家庭及び地域との連携を図った保健管理の進め方</p>	<p>① 適切な健康診断の実施と事後措置の進め方並びに結果の活用について</p> <p>② ヘルスプロモーションの考え方を生かした指導や保健管理の進め方について</p> <p>③ 感染症・食中毒等の予防及び発生時の対応について</p>
第3課題	心の健康	<p>豊かな人間性と社会性を育み、心の健康の保持増進を目指す教育の進め方</p>	<p>① 児童生徒の課題に即した心のケアや健康相談の進め方について</p> <p>② 心の健康づくりを目指した教育活動の展開と環境整備等の進め方について</p> <p>③ 学校、家庭及び地域の関係機関との連携を図った心のケアの進め方について</p>
第4課題	現代的健康課題	<p>多様化する現代的健康課題に適切に対応するための保健活動の進め方</p>	<p>① 学校においてアレルギー疾患に適切に対応するための保健活動の進め方について</p> <p>② 発達の段階に応じた性に関する指導の進め方について</p> <p>③ 生涯にわたる健康の保持増進につながる生活習慣づくりについて</p>
第5課題	歯・口の健康づくり	<p>生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方</p>	<p>① 歯科健康診断の効果的な実施と結果等を活用した健康教育の実施について</p> <p>② 各教科、特別活動及び総合的な学習の時間等との関連を図った指導計画の作成、実施、評価及び改善について</p> <p>③ 学校、家庭及び地域社会が連携した学校歯科保健活動の進め方について</p>

課 題		研究発表者	講師・指導助言者（コーディネーター）
第 1 課題	学校経営と保健組織活動	① 長野県長野市立戸隠中学校 前校長 岡本 伴子	○講 師 宇都宮大学 名誉教授 和唐 正勝 ○指導助言者（コーディネーター） 広島県教育委員会スポーツ振興課 課長代理 黒田 康弘
		② 三重県四日市市立河原田小学校 教諭 甫本 創太	
		③ 福岡県立八女高等学校 教諭 吉岡 千恵子	
第 2 課題	保健管理	① 三重県松阪市立豊田小学校 養護教諭 小倉 裕子	○講 師 公益財団法人 日本学校保健会 専務理事 弓倉 整 ○指導助言者（コーディネーター） 岩手県教育委員会保健体育課 指導主事 高橋 雅恵
		② 名古屋市立若葉中学校 養護教諭 多田 実香	
		③ 信州大学教育学部附属特別支援学校 養護教諭 下村 智恵子	
第 3 課題	心の健康	① 山梨県山梨市立山梨南中学校 養護教諭 原 ゆほ	○講 師 関西学院大学 教授 井出 浩 ○指導助言者（コーディネーター） 滋賀県教育委員会保健体育課 主査 住吉 由加
		② 埼玉県幸手市立八代小学校 校長 鈴木 美江	
		③ 三重県立桑名北高等学校 教諭 向井 典子	
第 4 課題	現代的健康課題	① 新潟市立鏡淵小学校 養護教諭 奈良 広美	○講 師 東京女子医科大学 教授 林 和彦 ○指導助言者（コーディネーター） 愛媛県立伊予高等学校 教頭 西尾 しき
		② 三重県立白山高等学校 養護教諭 水谷 さとみ	
		③ 富山県南砺市立福野中学校 養護教諭 木村 千春	
第 5 課題	歯・口の健康づくり	① 三重県立豊学校 養護教諭 山中 千聡	○講 師 日本歯科大学 教授 福田 雅臣 ○指導助言者（コーディネーター） 東京都教育庁地域教育支援部 歯科保健担当課長 山田 善裕
		② 岩手県二戸市立福岡中学校 校長 佐藤 順 養護教諭 馬場 美沙紀	
		③ 福井県福井市社北小学校 養護教諭 藤田 希代子	

課題		研究協議題	研究協議題設定の趣旨	研究協議の内容
第6課題	学校環境衛生	快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方	<p>快適な学習環境をつくるためには、環境衛生活動の充実を図るとともに、教職員及び児童生徒が学校における環境衛生について関心を持つことが必要である。</p> <p>そのため、学校環境衛生基準を踏まえた学校環境衛生活動の進め方について協議する。</p>	<p>① 計画的・組織的な学校環境衛生活動の実施と事後措置について</p> <p>② 学校環境衛生管理の徹底を図るための取組について</p> <p>③ 学校薬剤師との連携による学校環境衛生の取組について</p>
第7課題	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育	安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方	<p>近年、青少年の喫煙や飲酒、薬物乱用が広がりを見せ、依然として深刻な状況にあることから、安全で豊かな社会と自らの健康を守り育てるための教育を充実する必要がある。</p> <p>そのため、発達の段階に即し、喫煙や飲酒、薬物乱用の防止教育を推進する方法について協議する。</p>	<p>① 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に関する指導計画の作成、実施、評価及び改善について</p> <p>② 小学校、中学校、高等学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方について</p> <p>③ 学校、家庭及び地域社会が連携した喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方について</p>
第8課題	学校事故防止対策	事件・事故災害を未然に防ぐ事前の危機管理や発生時の適切な対応について	<p>学校事故を未然に防ぐためには、日本スポーツ振興センター災害共済給付データを活用した事故分析手法を各学校で生かすとともに、同センターの調査研究についての理解を深める必要がある。</p> <p>また、事故検証やそれに基づいた再発防止策の立案と実施、継続、情報発信等の方法について協議する。</p>	<p>① 日本スポーツ振興センターの災害共済給付データを活用した安全対策について</p> <p>② 事件・事故災害の検証に基づいた再発防止対策の在り方について</p> <p>③ 事件・事故災害発生時の適切な対応の在り方について</p>
第9課題	教科等における安全教育	発達の段階に応じた効果的な安全教育について	<p>生涯にわたり安全な生活を送るためには、自他の生命尊重の理念を基盤として、進んで安全で安心な社会づくりに貢献できる資質や能力を育成する必要がある。</p> <p>そのため、発育発達の段階における特徴を考慮しつつ、効果的な安全教育の進め方について協議する。</p>	<p>① 安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、自らの責任を自覚して行動する生徒の育成について</p> <p>② 的確な判断のもと主体的に行動し、地域の安全活動等に参加する生徒の育成について</p> <p>③ 自らの安全を守るために主体的に行動し、他の人々の安全にも気配りができる児童の育成について</p>
第10課題	関係機関等との連携による安全の体制整備	学校・家庭・地域が連携した効果的な安全体制整備の在り方と通学路における安全確保の方策について	<p>学校安全体制を充実させるためには、校内体制を整備するとともに、関係機関や地域ボランティア等との連携を深めることが重要である。</p> <p>そのため、学校、家庭及び地域社会が連携した効果的な安全体制整備や安全確保方策の在り方について協議する。</p>	<p>① 学校安全充実のための効果的な校内体制の在り方について</p> <p>② 関係機関や地域ボランティア等との連携による防犯・交通安全の体制整備について</p> <p>③ 関係機関や保護者・地域住民等との連携による災害安全の体制整備について</p>

課題		研究発表者	講師・指導助言者（コーディネーター）
第6課題	学校環境衛生	① 山口県立山口高等学校 養護教諭 久保 明子	○講師 岐阜薬科大学 教授 永瀬 久光 ○指導助言者（コーディネーター） 栃木県教育委員会健康福利課 主査 飯島 宣幸
		② 名古屋市学校薬剤師会 会長 山口 一丸	
		③ 三重県伊賀市立島ヶ原中学校 教頭 藤山 秀公	
第7課題	喫煙、 防止教育 飲酒、薬物乱用	① 静岡県立静岡商業高等学校 養護教諭 杉山 祐美	○講師 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室 室長 嶋根 卓也 ○指導助言者（コーディネーター） 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生
		② 三重県伊勢市立倉田山中学校 教諭 多田 ちか	
		③ 広島市立可部小学校 主幹教諭 津島 正司	
第8課題	学校事故防止対策	① 独立行政法人日本スポーツ振興センター 学校安全部安全支援課 課長 米山 尚子	○講師 東京女子体育大学 教授 戸田 芳雄 ○指導助言者（コーディネーター） 長崎県教育庁体育保健課 体育指導監 後藤 慶太
		② 三重県津市立高茶屋小学校 校長 伊庭 正彦	
		③ 愛知県立一宮南高等学校 教頭 米本 かおり	
第9課題	教科等における安全教育	① 石川県立羽咋工業高等学校 (元 石川県立金沢北陵高等学校) 教諭 福井 勉	○講師 岩手大学 准教授 森本 晋也 ○指導助言者（コーディネーター） 東京都教職員研修センター 企画部企画課長 児玉 大祐
		② 三重県鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校 教諭 服部 文哉	
		③ 福岡県福津市立津屋崎小学校 校長 田渕 聡 教諭 早川 博史	
第10課題	関係機関等との連携に よる安全の体制整備	① 山口県下松市立久保小学校 校長 大田 典子	○講師 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 ○指導助言者（コーディネーター） 大分県教育庁学校安全・安心支援課 指導主事兼課長補佐 田崎 弘宣
		② 岐阜県各務原市立那加中学校 教頭 小嶋 隆弘	
		③ 三重県尾鷲市立尾鷲小学校 教諭 稲葉 武彦	

12 全体会及び課題別研究協議会・全国学校保健会中央大会 会場

〔1日目〕 11月16日（木） 全体会・受賞伝達式

内 容	会 場
全体会（開会式・表彰式・記念講演）	大ホール （文化会館1階）
受賞伝達式（学校保健表彰）	第1ギャラリーA （文化会館2階）
受賞伝達式（学校安全表彰／学校安全ボランティア活動奨励賞）	第1ギャラリーB （文化会館2階）

〔2日目〕 11月17日（金） 課題別研究協議会・全国学校保健会中央大会

（午前の部） 9：30～12：00 〔会場は9：00から開場〕

内 容	会 場
第1課題（学校経営と保健組織活動）	小ホール （文化会館地下1階）
第2課題（保健管理）	多目的ホール （男女共同参画センター1階）
第3課題（心の健康）	中ホール （文化会館1階）
第6課題（学校環境衛生）	大研修室 （生涯学習センター4階）
第9課題（教科等における安全教育）	視聴覚室 （生涯学習センター2階）

（午後の部） 13：00～15：30

内 容	会 場
第4課題（現代的健康課題）	多目的ホール （男女共同参画センター1階）
第5課題（歯・口の健康づくり）	中ホール （文化会館1階）
第7課題（喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育）	小ホール （文化会館地下1階）
第8課題（学校事故防止対策）	大研修室 （生涯学習センター4階）
第10課題 （関係機関等との連携による安全の体制整備）	視聴覚室 （生涯学習センター2階）
全国学校保健会中央大会	レセプションルーム （文化会館1階）

※参加希望人数により、会場を変更する場合があります。

13 大会会場（三重県総合文化センター）へのアクセスについて



大会会場(三重県総合文化センター)までの主な交通機関のご案内

◆鉄道ご利用

近鉄名古屋線 津駅下車、JR 紀勢本線 津駅下車、伊勢鉄道 津駅下車

※名古屋から約 1 時間・大阪から約 1 時間40分

◆路線バスまたは無料シャトルバス

津駅西口から約5分(三重交通路線バス)

※大会当日は、無料シャトルバス(津駅西口～総合文化センター)を運行予定

[運行時間]

・16日(木) 11:30～13:00 16:00～17:30

・17日(金) 8:30～ 9:30 12:00～13:00 15:30～17:00

◆徒 歩

津駅西口から約25分

◆マイカーご利用

伊勢自動車道 津インターから約10分

※駐車料金 無料